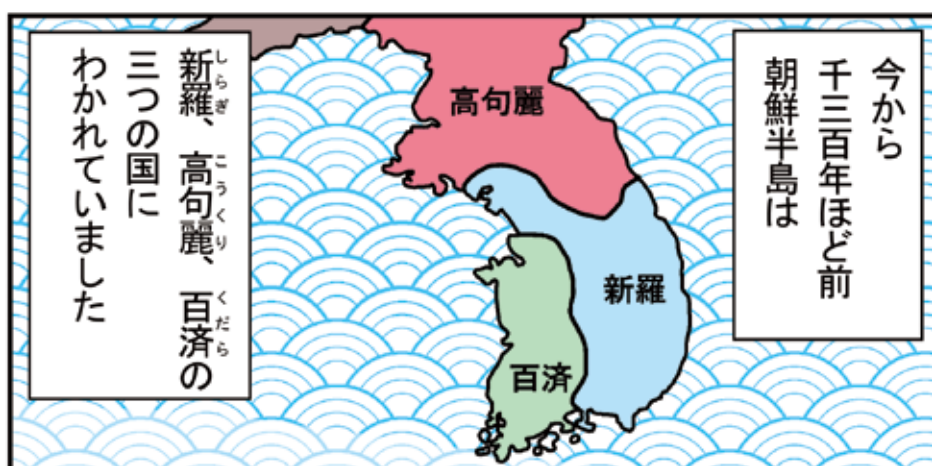
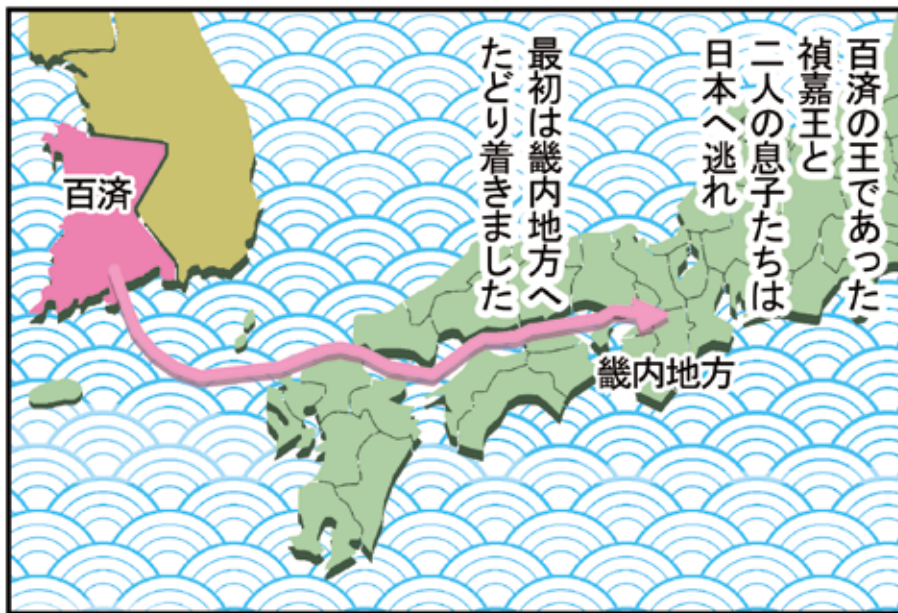


美郷町

百済伝説—師走祭り





しばらくは
平和な日々が続きました

しかし
百済の末裔を
消そうとする
敵の軍が
禎嘉王の
居場所をつきとめ
大挙して
押しよせて
きたのです!!

禎嘉王は地元の豪族の
味方を得て戦うも
苦戦を強いられます

それを救ったのは
比木から駆けつけた
福智王でした

父の危機を知り
神門へ駆けつけ
敵を討ち破ったのです!

しかし――
この戦いで
弟の華智王は
命を落とし

禎嘉王も
流れ矢に当たった傷がもとで
亡くなってしまいます

福智王も
のちに比木で亡くなります

※禎嘉王のお墓と言われている塚の原古墳



この師走祭り
昔は90kmの道のりを
9泊10日かけて巡行したそうですが
今は2泊3日に短縮されて

毎年1月下旬の
金・土・日に催されます



1日目 上りまし
比木神社を出発した
福智王のご神体が
神門神社へ向かう日
神門では迎え火をたきます

2日目 祭典・舞明かし
神門神社で
禊嘉王一家が再会し
夜神楽を舞って
祝う日です

3日目 下りまし
比木へ帰る福智王の
ご神体を神門の
人々が見送る日です



下りましは
村の人たちが
炊事道具を高く掲げ
オサラバーと声をあげて
見送ります

オサラバー
オサラバー

異国の王さまが

ここまで敬愛されているのは

異国の地で亡くなった王族を
ただかわいそうだと
同情しただけではないと思います

禊嘉王一族は神門の人々に
なにか素晴らしいものを
もたらしたのではないのでしょうか？



7世紀
日本には
大陸から
さまざまな文化が
伝来しています

青銅から
鉄に変化し
文明が飛躍的に
進化した
時期ですから
埴輪王たちが持つてきた
道具の一つ一つが
神門の人たちの生活を豊かに
変えたのかもしれない



それは
例えば
何かの道具や
技術だったかも
しれません



平成8年(1996)
神門に「西の正倉院」が
建立されたのですが
これは奈良正倉院の御物の
銅鏡と同じものといわれる
貴重な文化財が
神門に存在する
ことから建てられました

なんと
門外不出と
言われていた
正倉院原図を元に
忠実に再建された
のです

これは
宮内庁も協力し
奈良国立
文化財研究所も
学術支援を
しています




また驚くほど多くの
槍や矢などの武器も
見ることができます

集積された神門神社の宝物



ここには
百済王の遺品と伝えられる
「唐花六花鏡」を始め国宝級の
宝物が展示されています



